

12 同性カップルに希望の住まいを（性的マイノリティ）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもとこがお届けします。

10 生活の基盤となる住まい。しかし、LGBTの同性カップルが賃貸住宅を借りる際には、様々な壁があるということをご存じでしょうか。福岡市の三好不動産では、平成28年から同性カップルに配慮した賃貸住宅の仲介に取り組んでいます。

この取り組みを推進している社員の一人原麻衣さんにお話を伺いました。

15 【原さん役】同性カップルのお部屋探しの壁になるのは、まず保証人の問題です。自分たちの関係性を家族にも打ち明けられないので、保証人をお願いできないのです。そのため、一人で契約し、隠れて同居しているケースも少なくありません。しかし、偽って契約すると、水もれなどの緊急時に契約書にない同居者からの連絡は受けられないなどのリスクが伴います。

20 また、不動産管理会社やオーナーさんの同性カップルに対する理解が進んでいないという問題もあります。しかし、入居後にトラブルがなく家賃が滞りなく支払われれば問題

25 ないはずで、こちらがきちんと説明することでほとんどの方が納得してくれそうです。つまり、同性カプルの住まい探しの壁になっている理由の大半は、知識不足や理解不足であったり、それ故の偏見があつたりということですよ。

30 そこで、まずは私たちが社内からLGBTに対する知識や理解を深めることが大切と考え、勉強会を始めました。研修を通じて、いろいろな配慮ができるようになることが自分たちの役目だという自覚が高まりました。

35 同時に、SNSでの情報発信や企業向けのセミナーなども積極的に行った結果、弊社に理解を示していただく不動産管理会社も増えてきました。最近では、保証人はいららないという家賃保証会社も出てきています。

40 「初めて二人で部屋を見に行くことができた」と喜ぶ同性カプルの姿を目にしたとき、私も喜びが込み上げてきました。
(ナレーター) このような人権に配慮した取り組みは、企業イメージの向上にもつながっていききました。

最後に原さんは、こう言葉を結びました。

45 【原さん役】この問題に取り組みれば取り組みほど分かってくるのは、「理解すれば問題は解決する」ということです。お互いを知り、理解し合うことが、差別や偏見をなくす一番の近道だと思えます。